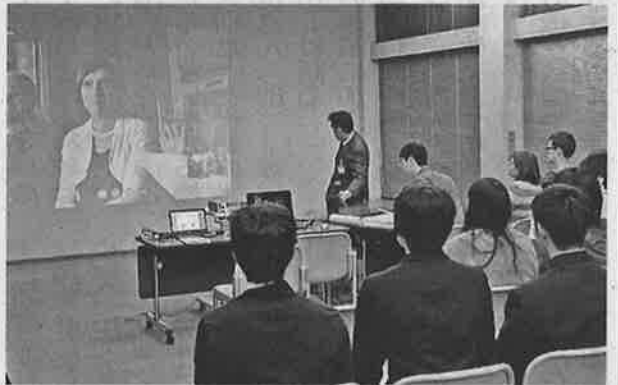


琵琶湖と伊の湖 つながれ

インターネット電話で交流会



インターネット電話サービスを使って昨年の世界湖沼会議を振り返るイタリアと滋賀県の関係者(草津市・国際湖沼環境委員会)

昨年9月にイタリアで開かれた「第15回世界湖沼会議」で生まれた交流を深め

ようと、国際湖沼環境委員会(ILEC)が19日、イタリアのトラジメノ湖と琵琶湖で保全活動に取り組み両国関係者による交流会を企画した。インターネット電話サービスを利用し、スクリーン越しに湖の近況を報告し合った。

県内からは、同会議に出席したNPO法人「びわこ豊穰の郷」や「針江生水の郷委員会」の関係者、滋賀県立大の学生、守山高の生徒ら約20人が、ILEC会議室(草津市)に集合。イタリア側は、ペルージャ外国人大学の研究者や、会議内で現地の漁について発表したトラジメノ湖漁業組合の代表らが参加した。

滋賀側からは「琵琶湖で

はオオバナミズキンバイの駆除に力を入れている」と報告すると、イタリアの現地研究者は「こちらでは外来植物の被害はほとんどない。アシによる水の浄化作用の研究を進めている」と応えた。

会議を機に、学生の相互留学など交流協定を結んだ

両大学の学生たちも、互いの地域環境など質問した。交流会のコーディネーターを務めた県立大の上田洋平助教は「実験的な交流だったが、琵琶湖とトラジメノ湖で新しいつながりが生まれている。今後も人の交流を深め、広げたい」とあいさつした。(川辺晋矢)